

---

# 記憶

祢禰

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

記憶

### 【著者名】

N-1909B

### 【作者名】 祢禰

### 【あらすじ】

心の中のポツカリ間にHillary。楽しくない学校。「心のポツカリ間を埋めるため、ウチは何をすればいい……？」彼女は動き出す、心の穴を埋める為に……。

記憶 . . . 1

独りは嫌い。

あの頃のことを、思い出してしまつから。

でも今、ウチは独りじゃない。

みんなが居る . . .

だけど、このほっかりとあいた心の中は何なのかな . . . ?

記憶 . . . 1

【「林檎の赤

水風船が割れた

こぼれ落ちた水に紛れ泣いた . . . 】

耳元でウチの大好きな曲が流れる。

携帯からだ。

毎朝、この曲を聞くと（ああ、朝だ。）と醒つ。

外はまだ薄暗い。 ウチは

「眠い . . . 」

と田をこすりながら、布団から起き上がつた。

ブルブルツ：

体中が震えた。

今は冬。じじいは大阪だけど、寒いのには変わりない。寝起きだから、良い眠気<sup>めいき</sup>がましになるのだけど……

「寒つ……、最近また寒なつたわあ……」

ウチはそつ咳きながら、また布団に潜つた。ああ、一度寝をしてしまいそう……。だけど暖かい毛布にぐるまり、長い時間また眠つた。

パチッ

また目が覚めた、寒わなのだらうか?せつかく眠つたのに、と思いつ携帯を見た。

「げえツ……もひ6時50分やんツー。」

ウチは6時に起きるつもりだったのに……と呟ぶと、スクッと起き上がり、制服に着替える。ああ、もう面倒くさいことつぶやきながら……

・・・ドタバタ・・・

「おはよー!」

「あ、あかね・・・オハヨ。」

軽くママと会話を交わし、洗面所へ向かう。うん、まだ髪は大丈夫かな?と髪をいじりながら言つ。いつも髪がピンピンに跳ねたりするのだ。それに対して綺麗だったから今日は「機嫌・・・

「はい。」

「あ、ママ……有難う……」

ママが紅茶をいれてウチに渡す。ママがいれる紅茶は、意外と美味しこ。

パチン。

「しゃべ走様……」

「あ、もう食べへんの?」

「もうお腹いっぱいせもん。」

この頃ウチ、朝食欲無いねん……」

そつ良いながら椅子から立ち上がる。  
もつお腹いっぽいやし……最悪かも。と思しながらもつい一度洗面所へ向かった。

「行ってきますーす!」

私は叫んでドアを開める。  
ふあ～とあぐびをする、寝たり無いのかな……と油にながり起きはじめた。

カンカンカンカン……

リズミカルに階段をおりる。カン、となるのは少し気になるけどね。

「よし、今日も一日頑張るか！」

パチ、と頬を叩いた。頬を叩かないと、何故か氣合いが入らないのだ。

・・・ザワザワ・・・

さすが学校、もの凄く煩い。無駄な声が山ほど聞こえてくる・・・  
【トントン】・・・

靴箱から上靴を出す。この教室は二階・・・いい加減こんなに往復すると、嫌でも慣れる。

こんなの慣れたくないな・・・と思い、教室に入る。

・・・ザワザワ・・・

本当ににぎやかな教室、といつも思ひ。友達の悪口、好きな人のこと・・・耳をすませば聞こえてくる、聞かれたくない話はもう少し小さな声で話してほしい。

「あ、あつか姉～！おつはよ  
「あ、夏・・・おはよう！」

笑顔で挨拶して疲れる・・・とか思いつつ、返事をするウチ。まあ友達を大切に、だよ。

「明日休みやなあ……。」

「え、まじー？」

「？あか姉、知らんかったん??？」

ああすっかり忘れてた、明日は休みなんだ。だからみんな今日張り切つてるんだな、と思った。まったく……単純だな。

・・・キーン／＼ーンカーン／＼ーン・・・

「起立、礼、サヨウナラー」

「／＼／＼カヨウナラー。」「」

早くも学校が終わる。明後日は「子供祭り」とゆつのがあるから居残り。

言い出したやつは残ってやらないくせに……。ウチは体育館へ急いだ。

ウチの予感は的中。予想通り、前に出したやつ……あとでやは

男子と喋っていた。作業もしないでお喋りか・・田障りだなあ。  
だけど後がうるさいので言わなかつた。

．．．．．

もう嫌だ、残らん！

そう心で叫び、立ち上がる。さつきからずっとこうは作業をやつ  
ているのに、あととわやはケチまでつけてきた。  
いい加減にしろ、となるだらつ。

ウチは友達が先に帰つてしまつたので、独りで帰つた。

もうこんな生活嫌だつた。  
心のポツカリ間を埋めたかつた．．  
どうすれば埋まる？何をすればいい？  
この悲しい気持ちは．．何？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1909b/>

---

記憶

2010年10月15日00時32分発行